

日本におけるジェイン・オースティン書誌

——翻訳・翻案書目3——

田村道美

凡例

1. 本書目は、1926 [大正15] 年より2006 [平成18] 年11月までの間にわが国で刊行されたジェイン・オースティン (Jane Austen, 1775-1817) の作品の翻訳・翻案についての書目である。
2. 本書目作成に当たっては、1点を除いてすべて筆者架蔵本について記事を採用した。架蔵していない1点についても、所蔵図書館より借り受け、実物にあたった。
3. 項目の排列は刊行順とし、各項目の前に通し番号を付した。ただし、上・下2巻で刊行された場合には、1-1、1-2という番号の付し方をした。
4. 項目の記載は、訳書名、訳者、初版発行年月日、発行所、定価、収録作品、体裁、構成、表紙・カバー・帯の惹句、使用原書の順とし、最後に筆者による解説を付した。
5. 訳書名は、原則として表紙および扉に記載のものを採り、表紙・扉・奥付等の記載の間に相違がある場合には解説にその旨を記した。なお、訳書名等の漢字・仮名遣いは原本の表記に従った。
6. 初版刊行年については、奥付の記載が元号の場合は西暦に換算し、元号は [] 内に示した。奥付の記載が西暦の場合にも、一貫性を考えて、[] 付きで元号を付した。また、奥付等の数字が漢数字の場合はアラビア数字に改めた。
7. 使用原書については、訳者が解説等で使用した原書を明記している場合、その箇所を「」を付してそのまま引用した。
8. 筆者の解説の冒頭に、訳書の原題とその初版発行年を示した。ただし、少女期の作品については推定執筆年を示した。
9. 訳書の多くでオースティンの肖像画が口絵として使用されている。オースティンの肖像画は姉カサンドラのスケッチ画 (ロンドン・ナショナル・ポートレート・ギャラリー蔵) が唯一のものであるが、別に、甥ジェームズ・エドワード・オースティン＝リーが『思い出のジェイン・オースティン』(1870) 刊行に際して、その巻頭を飾るためにアンドルーズなる人物に依頼した肖像画がある。口絵等がカサンドラのスケッチ画の場合は、口絵の後に(カサンドラ筆)を、アンドルーズ氏の手になる肖像画の場合には(アンドルーズ筆)を付した。

19 『オースティン・ギヤスケル』

訳者 中野好夫・小池滋

初版発行 1967 [昭和42] 年1月25日

発行所 筑摩書房

定価 490円

- 収録作品 『自負と偏見』（中野好夫訳）、『女だけの町』（小池滋訳）
- 体 裁 19.5×13.8cm。クロス装、丸背、ビニカバー、函付。
- 構 成 扉、口絵オースティン肖像（カサンドラ筆）、ギヤスケル肖像（ジョージ・リッチモンド筆）、『自負と偏見』本文（2段組、pp.5-336）、『女だけの町』本文（2段組、pp.339-507）、「解説（オースティン）」中野好夫（2段組、pp.508-516、写真4葉）、「解説（ギヤスケル）」小池滋（2段組、pp.516-526、写真5葉）、「オースティン年譜」（小池滋編）（pp.527-531）、「ブロンテ年譜」（小池滋編）（pp.531-533）
- 月 報 小沢敬子「オースティンの小説と居間」（2段組、pp.1-3）
上田和夫「ギヤスケル夫人断章」（2段組、pp.3-5）
海老池俊治「ジェイン・オースティンの家」（2段組、pp.5-8）

解 説 *Pride and Prejudice*の訳本。「世界文学全集」（1966-1970）全69巻内の第14巻（第13回配本）として刊行された。訳と解説は1960〔昭和35〕年1月30日刊行「世界文学大系」第28巻『オースティン 自負と偏見・ブロンテ 嵐が丘』と同一である。

月報執筆者の一人である小沢敬子の身分は東京大学大学院在学とあるから、大抜擢である。これまでのオースティン研究家の中に小沢敬子の名を見出すことはできない。小沢は出淵敬子氏（1937-）の旧姓ではないか。「ヴァージニア・ウルフ著作集2」『ジェイコブの部屋』（みすず書房、1977年5月25日）の訳者出淵敬子氏の略歴を見ると、「1937年東京に生れる。1961年日本女子大学英文科卒業。1970年東京大学大学院博士課程修了。1968年コロンビア大学大学院修了。」とある。この略歴から、『オースティン・ギヤスケル』が刊行された1967年に、出淵氏が東大の大学院生であった可能性が高い。また、米山三明「出淵博先生を偲ぶ」（『成蹊英語英文学研究』第4号、2000〔平成12〕年3月25日）によれば、出淵博は1962〔昭和37〕年4月に東京大学大学院（人文科学研究科）に入学し、1969〔昭和44〕年3月に「大学院時代の同級生の敬子様」と結婚したという。したがって、小沢敬子は出淵敬子氏の可能性が高いと思われる。

「ジェイン・オースティンの家」に写真が3葉使われている。この3葉は『Jane Austen 論考』（研究社出版、1962〔昭和37〕年7月25日）に掲載されたものと同じある。同書「まえがき」に「なお、函版の写真3葉は、1959年の夏 Hampshire を旅行したとき、わたしがとったものである。」とある。3葉の写真のキャプションはそれぞれ「CHAWTONのJANE AUSTENの家」「ALTONの街」「WINCHESTERのJANE AUSTENが死んだ家」である。

20 『高慢と偏見・説きふせられて』

- 訳 者 阿部知二
- 初版発行 1968〔昭和43〕年5月10日
- 発行所 河出書房新社
- 定 価 750円
- 収録作品 『高慢と偏見』、『説きふせられて』
- 体 裁 22.6×15.7cm。クロス装、丸背、ビニカバー、帯、函付。
- 構 成 扉、『高慢と偏見』「主要人物」一覧 p.4 本文（2段組） pp.5-233。
『説きふせられて』「主要人物」一覧 p.236 本文（2段組） pp.237-402。
「オースティン年表」 pp.403-405
「解説」（2段組） pp.409-422。写真22葉。
巻頭口絵 オースティン肖像画（カサンドラ筆）
本文にフィリップ・ゴフ筆のカラー挿絵11葉。

「しおり」「世界文学紀行(29)」「ウィンチェスターふたたび」(小野寺健 当時横浜市大助教授)

解 説 *Pride and Prejudice* と *Persuasion* の訳本。「カラー版世界文学全集」全38巻別巻2巻内の第9巻(第29回配本)として刊行。

「しおり」の「編集室から」に「カラー版世界文学全集第29回配本として、豊かな知性とふくよかな感性があふれるオースティンの代表作2編を、阿部知二先生の流麗な訳でお送りいたします。『高慢と偏見』は既訳を全ページにわたり手を入れていただき、『説きふせられて』は本巻のための新訳です。」とある。ここでいう「既訳」とは「グリーン版 世界文学全集 II-6」として刊行された阿部知二訳『高慢と偏見』(河出書房新社, 1963)を指すのであろう。なお、「解説」の末尾で、阿部は「『高慢と偏見』では皆河宗二氏、『説きふせられて』では榎林哲氏の協力を得た。」と謝意を記しているから、この二人が各作品の下訳を担当したと考えられる。榎林哲(さとる)氏は創元推理文庫等の訳書がかなりあるので、翻訳家だったようである。いずれにせよ、阿部とはかなり近い人物らしく、次の述べるように、『阿部知二全集』の解題を担当している。

『阿部知二全集』第13巻(河出書房新社, 1975年7月15日)に「ジェイン・オースティン」と題する文章が収められている。この文章に関して、榎林哲は「解題」中で次のように記している。「『ジェイン・オースティン』——著者の訳書である河出書房新社カラー版世界文学全集『高慢と偏見・説きふせられて』(昭和43年5月10日発行)の解説である。『高慢と偏見』はこれより先グリーン版世界文学全集の一冊として発行されている(昭和38年12月10日)が、この「解説」はグリーン版のそれを補足したものである。」(p.323)

「カラー版世界文学全集しおり」(しおりの表紙絵として、H. M. ブロック筆, 1914年発行のF. S. ホルバイ私家版の挿絵のひとつ「ペンバリーの館を訪れ、ダーシー兄妹と語るエリザベス」が使用されている。)

「しおり」には「世界文学紀行(29)」「ウィンチェスターふたたび」(小野寺健 当時横浜市大助教授)が収められている。このタイトルはイヴリン・ウオー『プライズヘッドふたたび』をもじったものであろう。1963年に吉田健一訳『プライズヘッドふたたび』(筑摩書房)が刊行された。本文中に小野寺氏撮影の写真3葉(「チョートンのオースティンの家」「きしむ扉」「オースティンの墓」)、しおりの裏表紙に同氏撮影の「典型的な南イングランドの田園風景(チョートン付近)」がある。

21 『オースティン 高慢と偏見・説得』

訳 者 伊吹知勢・近藤いね子

初版発行 1969[昭和44]年3月18日

発行所 講談社

定 価 580円

収録作品 『高慢と偏見』(伊吹知勢訳)、『説得』(近藤いね子訳)

体 裁 19.4×13.5cm。クロス装、丸背、ビニカバー、帯、函付。

構 成 扉、『高慢と偏見』本文(二段組) pp.5-290.

『説きふせられて』本文(二段組) pp.293-486.

「解説」(二段組) pp.487-508. 写真12葉。

「主要参考文献」(二段組) pp.487-508.

「年譜」(三段組) pp.519-514.

巻頭口絵 オースティン肖像画(カサンドラ筆)

題扉と目次の間にカラー写真14葉収録。本文中に笠木実のデッサン画7葉収録。

月報 「良き昔の話—作者および訳者たちについて」(福原麟太郎)

『高慢と偏見』と『説きふせられて』のあらすじと登場人物を記したしおり付き。

帯の惹句。「一見平凡な記述のうちに、人生の真実を描写し人間的英知をひそませる—モームが世界の十大小説の一つに推賞した「高慢と偏見」、適齢期の女性心理の屈折を適確な筆致で追求したオースティンの名作二篇を新訳で贈る。」

使用原書 「翻訳は主としてチャップマン編さんのオックスフォード版によっている。(主としてと断ったのは、章の数え方においては通し番号を用いることとして、初版に倣って『高慢と偏見』を3巻に、『説得』を2巻に分けているこの版のゆき方を採用していないからである。)」

解説 *Pride and Prejudice* 及び *Persuasion* の訳本。講談社が創業60周年記念出版として企画した「世界文学全集」全48巻内の第11巻(第26回配本)として刊行された。

「解説」に「題の日本語訳に『説き伏せられて』を用いる人もあるが、訳者は『説得』を選んだ。小説の主題が、8年前に周囲の者から婚約を破棄すべく説き伏せられたアンが、真の恋愛の根強さとこの恋人を心に持ちつづけた彼女自身の判断の正しさを、その真実なうるわしい人となりをとおして相手の男と周囲の者たちに認識させ、説得してゆくプロセスにあるからである。」とある。

津田塾大学名誉教授の近藤いね子(1911-)は日本におけるジェイン・オースティン研究の草分けの一人で、『英国小説と女流作家—オースティンとウルフ—』(研究社出版、昭和30[1955]年12月25日)等がある。なお、近藤は伊吹が『高慢と偏見』を訳すに至った経緯を次のように述べている。

いささか私事にわたるが、『高慢と偏見』の翻訳は、講談社からはじめ私が依頼を受け、伊吹さんをお願いしたものである。すでに数多くの翻訳が出ているこの小説の翻訳を決心されたとき、伊吹さんの心には、これを作者と同じ女性の手で真に原作のこころを伝える日本語にしたいという願いと、それが自分には出来るという自信とがあったと思われる。この頃、伊吹さんは長年のリユーマチも加わって、原稿を書く作業も思うに任せず、時には口述しておられた。痛々しい限りであった。しかしこのことは、結果的には幸いをもたらしたと思う。この小説はその創作の過程で作者が時々家族に読み聞かせたと言われるもので、そのようにして出来上った作品の文体の秘密を、伊吹さんがご自分も同じ方法をとられたことで、掘り当てられたのではないかと考えるからである。(近藤いね子「序にかえて」『オースティンとウルフ—伊吹知勢論文集—』私家版、1984[昭和59]年4月11日)

近藤が伊吹に *Pride and Prejudice* 翻訳を依頼したのは、伊吹が岡田美津注釈『*Pride and Prejudice*』に改訂補注を施す仕事をしており、*Pride and Prejudice* については熟知していると判断したためかもしれない。伊吹が改正補注を施した『*Pride and Prejudice*』は研究社英文学叢書第14巻・第15巻として1957[昭和32]年1月20日に刊行された。

月報の「執筆者の横顔」によれば、笠木実は「1920年群馬県に生まれる。東京美校油絵科卒。1951年春陽会賞受賞。1962年フランス留学。現在、春陽会会員、武蔵野美大講師。」という。

22 『高慢と偏見』

訳者 伊吹知勢

初版発行 1972[昭和47]年2月15日

発行所 講談社

定 価 280円

収録作品 『高慢と偏見』

体 裁 14.8×10.7cm。紙装、角背、カバー付。

構 成 扉、本文(pp.7-475)、「解説」 pp.476-491、「年譜」(2段組) pp.492-498。

カバー惹句 「男が女に対して抱く“高慢”と、女が男に対して持つ“偏見”の感情と心理の綾を、軽妙なウィットと円熟したドラマティックな手法で巧みに表現——女主人公エリザベスの澁澁とした挙動、個性的な話し振り等により理想的女性像を描出。近代小説史上、一時期を画する名作。」

解 説 *Pride and Prejudice*の訳本。講談社文庫B28として刊行された。訳文は「世界文学全集」第11巻、伊吹知勢・近藤いね子訳『オースティン 高慢と偏見・説得』（講談社、1969 [昭和44]年3月18日）と同一である。ただし、「解説」と「年譜」は伊吹知勢が新たに作成したものである。

何刷からか特定できないが、カバーの装幀が変更になっている。筆者架蔵の内では、1978 [昭和53]年6月26日6刷のカバー装幀が亀倉雄策から丹阿弥丹波子に代わっている。

23 『自負と偏見・嵐が丘』

訳 者 中野好夫・大和資雄

初版発行 1972 [昭和47]年9月25日

発行所 筑摩書房

定 価 1,300円

収録作品 『自負と偏見』（中野好夫訳）、『嵐が丘』（大和資雄訳）

体 裁 22.5×15.7cm。クロス装、丸背、パラフィン、ビニールカバー、函。

構 成 扉、巻頭口絵 オースティン肖像画（カサンドラ筆）、ブロンテ肖像画。

『自負と偏見』 本文（3段組） pp.5-227.

『嵐が丘』 本文（3段組） pp.231-423.

「ジェイン・オースティン」（デイヴィッド・セシル、青木雄造訳）（3段組）

pp.425-437.

「エミリ・ブロンテ」（チャールズ・モーガン、青木雄造訳）（3段組） pp.438-448.

「解説（オースティン）」 中野好夫（3段組） pp.449-453.

「解説（ブロンテ）」 大和資雄（3段組） pp.454-457.

「オースティン年譜」 小池滋編 pp.458-461.

「ブロンテ年譜」 小池滋編 pp.462-464.

月 報 「小説のお手本」（倉橋由美子） pp.1-5.

「嵐が丘 主要人物表」 p.6.

「参考文献」 p.7.

解 説 *Pride and Prejudice*の訳本。「筑摩世界文学大系」全89巻91冊内の第33巻（第30回配本）として刊行された。「世界文学大系」第28巻『オースティン 自負と偏見・ブロンテ 嵐が丘』（1960 [昭和35]年1月30日）と同じ内容・構成である。唯一の相違点は、「ジェイン・オースティン」（デイヴィッド・セシル）と「エミリ・ブロンテ」（チャールズ・モーガン）それぞれの最後に「訳者付記」が付されている点である。

『パルタイ』で芥川賞を受賞し、『炭焼きストQ』等を書いていた倉橋由美子とオースティンにはわかには結びつかない。しかし、月報に寄せたこの文章の中で倉橋はオースティンの作品を文字どおり「小説のお手本」として絶賛している。倉橋は文芸雑誌『海』（中央公論社）の1969 [昭

和44]年6月号～1971[昭和46]年12月号に「小説に関するいくつかの断片」(のちに「反小説論」と改題され、エッセイ集『迷路の旅人』[講談社、昭和47年5月28日]に収録。)を発表した。この中で倉橋はオースティンとその作品を絶賛している。『自負と偏見・嵐が丘』の刊行は1972[昭和47]年9月25日であるから、おそらく「筑摩世界文学大系」編集担当者が「小説に関するいくつかの断片」を読み、倉橋に月報を依頼したのであろう。

なお、倉橋は同時期にやはり雑誌『海』の1970[昭和45]年7月号～10月号に『夢の浮橋』を連載した。『夢の浮橋』のヒロイン・牧田桂子は大学3年生で、オースティンを研究している。したがって、この小説の中でオースティンは重要な役割を果たしている。『夢の浮橋』は倉橋にとって最初の長編小説である。野上弥生子が『高慢と偏見』に刺激されて最初の長編小説『真知子』を書いたことと思えば興味深い。

24 『エマ』

訳者 阿部知二

初版発行 1974[昭和49]年1月10日

発行所 中央公論社

定価 480円

収録作品 『エマ』

体裁 15×10.4cm。紙装、角背、カバー。

構成 扉、本文(pp.5-716)、フィリップ・ゴフ(マクドナルド版)の挿画34葉。

「解説・年譜」(阿部知二) pp.717-739.

カバー惹句(裏)「漱石がオースティンの小説を激賞してから60年以上たって、初めて翻訳された本篇は、彼女の円熟期における代表作である。物語は、明るく快い南イングランドの田園的社交生活を背景に、年若く美貌で才気に富むエマの恋と恋愛ばなしをめぐって展開される。そこに、鋭くかつ繊細に、辛辣にまたユーモラスに、近代の陣痛期の間人像を描き出す——。「完璧な小説家」の、小説ならではの味わえぬ滋味に溢れる最高傑作。」

使用原本 「テキストは、R. W. チャップマン博士編纂の「ジェイン・オースティン」小説集(5巻、オクスフォード大学出版部、初版1923年)の第4巻「エマ」を使用した。…挿画はマクドナルド版、フィリップ・ゴフ画を掲載した」

解説 *Emma*の訳本。「世界の文学」第6巻(1965[昭和40]年4月10日)を中公文庫として刊行したもの。中央公論社は講談社が文庫本を創刊したのに刺激され、1973[昭和48]年6月に中公文庫を発売した。同文庫に収められた外国文学の翻訳物は主として同社がかつて刊行した「世界の文学」収録の作品がほとんどであり、『エマ』もその一つである。

元版にあった口絵肖像(カサンドラ筆)はカバーの折り返しに掲げられている。「解説」中の写真10葉はすべて省かれている。「解説」の最後に「この「解説」は中央公論社版『世界の文学』第6巻のために書かれたものであるが、それを本文庫に収めるに当って技術上、二、三箇所削除したほかは、ほとんどそのまま収めることにした。(阿部澄子)」とある。カバー折り返しにある訳者紹介の最後に「長篇『捕囚』を未完のまま、48年4月、死去。」とある。これによって、死んだ夫に代わって、妻の澄子が解説の校正をしたことがわかる。

25 『オースティン 自負と偏見・ブロンテ 嵐が丘』

訳者 中野好夫・大和資雄

初版発行 1974[昭和49]年10月1日

発行所 筑摩書房
 収録作品 『自負と偏見』（中野好夫訳）、『嵐が丘』（大和資雄訳）
 体裁 22.3×15.6cm。クロス装、丸背、函付。
 構成 扉、本文（pp.5-268）、「解題」 pp.269-271。
 『自負と偏見』本文（3段組） pp.5-227。
 『嵐が丘』本文（3段組） pp.231-423。
 「ジェイン・オースティン」（デイヴィッド・セシル、青木雄造訳）（3段組） pp.424-436。
 「エミリ・ブロンテ」（チャールズ・モーガン、青木雄造訳）（3段組） pp.437-447。
 「解説（オースティン）」中野好夫（3段組） pp.448-452。
 「解説（ブロンテ）」大和資雄（3段組） pp.453-456。
 「オースティン年譜」小池滋編 pp.457-460。
 「ブロンテ年譜」小池滋編 pp.461-463。
 巻頭口絵 オースティン肖像画（カサンドラ筆）、ブロンテ肖像画
 装幀 庫田 焔

解説 *Pride and Prejudice* の訳本。「近代世界文学」全35巻内の第11巻として刊行された。「近代世界文学」は「世界文学大系」から近代文学35巻を独立させて、セット物として一括販売したものである。したがって、「世界文学大系」第28巻『オースティン 自負と偏見・ブロンテ 嵐が丘』と同一内容であるが、セシルのオースティン論とモーガンのブロンテ論が落ちており、月報も付いていない。セットものゆえ、各巻の奥付に定価は印刷されていないが、セットの定価は77,000円であったから、一卷当たりの定価は2,200円となる。

26 『オースティン 高慢と偏見・説得』

訳者 伊吹知勢・近藤いね子
 初版発行 1975〔昭和50〕年11月1日
 発行所 講談社
 定価 820円
 収録作品 『高慢と偏見』（伊吹知勢訳）、『説得』（近藤いね子訳）
 体裁 18.4×12.4cm。クロス装、丸背、カバー、函付。
 構成 巻頭口絵 オースティン肖像画（カサンドラ筆）、扉と目次の間にカラー写真8葉収録、扉、「『高慢と偏見』主な登場人物」一覧表 p.4。
 『高慢と偏見』本文（2段組） pp.5-314。
 「『説得』主な登場人物」一覧表 p.316、「説得」本文（2段組） pp.317-526。
 「解説」近藤いね子（2段組） pp.527-547。写真7葉。
 「主要参考文献」（3段組） pp.547-548。
 「解題」近藤いね子（2段組） pp.549-553。
 「年譜」近藤いね子（3段組） pp.554-558。

カバー惹句 「独身でお金持ちの男性には当然細君が必要でしょう？人生の大事は娘の結婚、そして人生営為の真理はいずこから来る？花ひらく適齢期の女性心理をはつらつと描き、人間的英知を見事にひそませる、これは女流オースティンが世紀を越えてあなたに贈る「愛」についての長く、味わい深いレターです。」

使用原書 「翻訳は主としてチャップマン編纂のオックスフォード版によっている。（主としてと

断ったのは、章の数え方においては通し番号を用いることとして、初版に倣って『高慢と偏見』を3巻に、『説得』を2巻に分けているこの版のゆき方を採用していないからである。』

解説 *Pride and Prejudice* 及び *Persuasion* の訳本。「オプション103世界文学全集」全103巻別巻1内の第21巻(第14回配本)として刊行された。本書の訳文と解説とは「世界文学全集」第11巻として刊行された伊吹知勢・近藤いね子訳『オースティン 高慢と偏見・説得』(1969[昭和44]年3月18日)と同じである。相違点は、扉と目次の間に収められているカラー写真の数が1969年版では14枚であるのに対し、本書は8枚に減っていること、1969年版にあった笠木実のデッサン画7葉がすべて削除されていること、そして「解説」に使用されている写真が異なることである。また、本書には新たに「解題」(『ノーサング・アベール』、『分別と多感』、『マンスフィールド・パーク』、『エマ』)が付け加えられている。

27 『オースティン』

訳者 伊吹知勢・近藤いね子

初版発行 1976[昭和51]年10月20日

発行所 講談社

収録作品 『高慢と偏見』(伊吹知勢訳)、『説得』(近藤いね子訳)

体裁 21.5×15.7cm。クロス装、丸背、函付。

構成 巻頭口絵 オースティン肖像画(カサンドラ筆)、扉と目次の間にカラー写真3枚収録
扉、『高慢と偏見』主な登場人物一覧表 p.4、『高慢と偏見』本文(2段組) pp.5-290。

『説得』主な登場人物一覧表 p.292、『説得』本文(2段組) pp.293-486。

「解説」近藤いね子(2段組) pp.487-508 写真12葉。

「主要参考文献」(2段組) pp.508-509。

「年譜」近藤いね子(3段組) pp.510-514。

使用原書 「翻訳は主としてチャップマン編さんのオックスフォード版によっている。(主としてと断ったのは、章の数え方においては通し番号を用いることとして、初版に倣って『高慢と偏見』を3巻に、『説得』を2巻に分けているこの版のゆき方を採用していないからである。)」

解説 *Pride and Prejudice* 及び *Persuasion* の訳本。「豪華版世界文学全集」(1974-1993)全104巻の第5巻として刊行された。Nacsis Webcatには「豪華版世界文学全集(1974-1993)全104巻の第21巻として刊行された。」とあるが、これは誤りである。本書の背、奥付、題扉、函のすべてに第5巻とある。また、本書は前年刊行された「オプション103世界文学全集」第21巻の復刻版ではなく、1969年刊行の「世界文学全集」第11巻の復刻版である。ただし、「世界文学全集」との相違点は活字のポイントが大きくなっていることである。奥付や函等に定価は表示されていない。講談社に照会したところ、理由は不明であるが、社内記録では1巻1,800円で販売したとのことである。

28 『オースティン・ギaskell』

訳者 中野好夫・小池滋

初版発行 1978[昭和53]年6月20日

発行所 筑摩書房

収録作品 『自負と偏見』(中野好夫訳)、『女だけの町』(小池滋訳)

体裁 19.5×13.8cm。クロス装、丸背、ビニカバー、函付。

構成 扉、口絵オースティン肖像(カサンドラ筆)、ギaskell肖像(ジョージ・リッチモン

ド筆)、『自負と偏見』本文(2段組、pp.5-336)、『女だけの町』本文(2段組、pp.339-507)、『解説(オースティン)』中野好夫(2段組、pp.508-516、写真4枚)、『解説(ギャスケル)』小池滋(2段組、pp.516-526、写真5葉)、『オースティン年譜』小池滋編 pp.527-531。

『ブロンテ年譜』小池滋編 pp.531-533。

解説 *Pride and Prejudice* の訳本。「世界文学全集」(1978)全70巻内の第14巻として刊行された。1966年-1970年にかけて刊行された「世界文学全集」の装幀を黒クロス装に変えてセット物として一括販売された。セット物ゆえ、奥付や函に定価は印刷されていないが、セットの定価は54,000円であったから、1巻当たりの定価は約680円となる。月報も付されていないが、前「世界文学全集」の各月報が『月報合本』(第70巻)としてまとめられている。したがって、この全集の巻数は前「世界文学全集」より1巻多くなっている。

29 『マンスフィールド・パーク』

訳者 白田 昭

初版発行 1978 [昭和53] 年11月25日

発行所 集英社

定 価 980円

収録作品 『マンスフィールド・パーク』

体 裁 19.4×13.8cm。クロス装、丸背、函付。

構 成 扉、口絵肖像(アンドルーズ筆)。

「本文」(2段組) pp.5-412。

「後記・注解」(2段組) pp.415-417。

「解説」(2段組) pp.419-428。

「年譜」(2段組) pp.429-430。

「一枚物、しおり」『『マンスフィールド・パーク』の登場人物』

目次の裏頁に「1800年ごろのポーツマス」と題する略図あり。

帯の惹句 「一女性の忍従の日々を描いた英国最大の女流作歌の傑作! 田舎貴族の親戚の家で養女として育った病身で内気なファニー・プライスは苦勞の末、ついに従兄弟と結ばれるが…あざやかな性格描写、軽妙な機知に富む作品。」

使用原本 「翻訳のテキストとして用いたのは、オクスフォード英国小説集中のもの(1970年)である。ときとしてペンギン版(1975年)、チャップマン編の全集版(1953年)をも参照した。」

解説 *Mansfield Park* (1814) の本邦初訳本。「集英社版世界文学全集」全88巻内の第17巻(第13回配本)として刊行。

白田昭(1928-1990)は英文学者。オースティンに関する論文としては、「ジェイン・オースティンにおける知能の問題について」(『菅泰男・御輿員三両教授退官記念論文集』あぼろん社、1980年11月)がある。

30 『高慢と偏見』

訳者 阿部知二

初版発行 1980 [昭和55] 年11月30日

発行所 河出書房新社

収録作品 『高慢と偏見』

体裁 19.4×13.5cm。クロス装、丸背、函付。

構成 扉、口絵肖像、写真9葉。

「主要人物」一覧表p.2.

「本文」 pp.3-399.

「ジェイン・オースティン年譜」 pp.401-403.

「解説」(阿部知二) pp.405-425.

解説 *Pride and Prejudice* の訳本。「河出世界文学大系」全100巻内の第16巻として刊行された。この全集はセット物として販売されたため、各巻に定価は記されていない。表紙のクロスの色はベージュになっているが、内容・構成等は「グリーン版 世界文学全集」第2集第6巻(1963[昭和38]年12月10日)と同一である。セット物ゆえ、月報は付されなかった。

31 『自負と偏見』

訳者 中野好夫

初版発行 1986[昭和61]年1月1日

発行所 フランクリン・ライブラリー

収録作品 『自負と偏見』

体裁 22.2×16.4cm。総革装三方金。

構成 巻頭口絵、扉、『自負と偏見』本文(2段組) pp.5-342.

「解説」中野好夫(2段組) pp.345-352.

ヒュー・トムソンの挿絵13葉(口絵1葉含む)

解説 アメリカのフランクリン・ライブラリー(東京に営業所あり)が「何百年もの耐久性がある」特製中性紙を用いて印刷した総革装『世界文学最高傑作・家宝版』全50巻の1巻で、第24回配本作品として刊行された。奥付に定価は記されていないが、1巻の定価は18,000円であった。なお、奥付に「本書の刊行は筑摩書房の許諾による」とある。筑摩書房から刊行された中野好夫訳『自負と偏見』は次の通りである。

「世界文学大系」第28巻『オースティン・ブロンテ』(1960[昭和35]年1月30日)

「世界文学全集」第14巻『オースティン・ギヤスケル』(1967[昭和42]年1月25日)

「筑摩世界文学大系」第33巻『オースティン・ブロンテ』(1972[昭和47]年9月25日)

「近代世界文学」第11巻『オースティン・ブロンテ』(1974[昭和49]年10月1日)

「世界文学全集」第14巻『オースティン・ギヤスケル』(1978[昭和53]年6月20日)

いずれも、訳文及び解説は同一なので、フランクリン・ライブラリーがどの版を用いたかは特定しがたい。

本書には口絵を含めて13葉の挿画が使われている。扉の裏頁に「本書の挿絵は、ヒュー・トムソン(1860-1920)の作品である。これらの作品は、1894年にロンドンのG.アレンより刊行された「自負と偏見」のために特に制作されたものである。」とある。これは、*Pride and Prejudice. With a preface by George Saintsbury and illustrations by Hugh Thomson. London: George Allen, Ruskin House, 156 Charing Cross Road, 1894. (D. Gilson, p.267)* である。なお、この版にはヒュー・トムソンの挿画が160葉用いられている。

本訳書には次のような一枚物が挟み込まれている。

FRANKLIN MINT

コレクターの皆様へ

今回お届けする商品は合計発行回数50回目のうちの第24回目の発行品です。

既にお届けの商品をお楽しみのことと存じます。この商品は、お届けしてからある一定期間を経過いたしますと、皆様のコレクションの価値を守るために弊社にある予備品を処分しております。

お忙しいところ恐縮ですが、お手許にこの商品を含めて24回分の商品が届いていることをご確認くださるとともに、万一商品に不足・不備がございましたら弊社カスタマー・サービス課までコレクト・コール（料金着信払通話・局番なしの106番を回して東京03-437-2011とご指定ください）をろ利用のうえ至急ご連絡ください。

引き続きコレクションをお楽しみくださいますようお願い申し上げます。

フランクリン・ミント株式会社 東京都港区虎ノ門4-1-13 茸手ビル
〒105-91 芝局私書箱242 Tel. (03) 437-2011 (代)

32-1 『高慢と偏見』上巻

訳者 富田 彬

改版第1刷発行 1994[平成6]年7月18日

発行所 岩波書店

定価 600円

収録作品 『高慢と偏見』（第1章-第37章）

体裁 14.9×10.5cm。紙装、角背、カバー。

構成 扉、「まえがき」(pp.5-6)、本文(pp.9-337)。

使用原本 「わたくしが使用した原本は、The Complete Novels of Jane Austen, (William Heinemann, 1928.)である。」

カバーの惹句 「所はのどかなハーフォードシア。ベネット家には五人の娘がいる。その近所に、独身の資産家ビングリーが引越してきた。——牧師館の一隅で家事の合間に少しずつ書きためられたオースティン(1775-1817)の作品は、探偵小説にも匹敵する論理的構成と複雑微妙な心理の精確な描出によって、平凡な家庭の居間を人間喜劇の劇場に変える。(全2冊)」

解説 *Pride and Prejudice* の訳本。「岩波文庫」32-222-1 赤222-1として刊行された。

32-2 『高慢と偏見』下巻

訳者 富田 彬

改版第1刷発行 1994[平成6]年7月18日

発行所 岩波書店

定価 460円

収録作品 『高慢と偏見』（第38章-第61章）

体裁 14.9×10.5cm。紙装、角背、カバー。

構成 扉、本文(pp.7-275)、「解題」(pp.277-279)。

カバーの惹句 「オースティンにとっては「田舎の三、四軒の家族こそが小説の格好の題材」なのだという。ベネット一家を中心とする恋のやりとりを描いたこの作品においても、作者が最も愛したといわれる主人公エリザベスを始めとして、普通の人々ひとりひとりの個性が鮮やかに浮かび上がる。若さと陽気さと真剣さにあふれた、家族小説の傑作。」

解説 *Pride and Prejudice* の訳本。「岩波文庫」32-222-2 赤222-2として刊行された。

Abstract

“A Bibliography of Jane Austen in Japan — Translations and Adaptations —” covers the years 1926 – 2006 and includes 53 Japanese translations and 3 adaptations of her novels. This is the third part of this bibliography which includes 15 translations published between 1967 and 1994, including a little-known edition of *Pride and Prejudice* published as part of the Franklin Library in 1986. The Franklin Library was a division of The Franklin Mint that produced fine collector editions over three decades ending in 2000. The full-leather bound copy of *Pride and Prejudice* was one of the volumes in The Franklin Library’s collection of The Greatest Masterpieces of the World Literature.

主要参考文献

- 池田哲郎『日外英学風土記』（篠崎書林、1979〔昭和54〕年7月7日）
- 石塚虎雄『ジェイン・オースティン研究』（興文社、1969〔昭和44〕年4月15日）
- 石塚虎雄『ジェイン・オースティン小説論』（篠崎書林、1974〔昭和49〕年8月25日）
- 伊吹知勢『オースティンとウルフ——伊吹知勢論文集——』（伊吹令人、1984〔昭和59〕年4月11日）
- 『岩波文庫総目録1927–1987』（岩波書店、1987〔昭和62〕年7月16日）
- 榎本みな子『オースティンの小説とその周辺』（英宝社、1984〔昭和59〕年12月10日）
- 海老池俊治『Jane Austen 論考』（研究社出版、1962〔昭和37〕年7月25日）
- 大内脩二郎『研究社英米文学評傳叢書37 ジェイン・オースティン』（研究社、1934〔昭和9〕年8月20日）
- 大島一彦氏『ジェイン・オースティン 「世界一平凡な大作家」の肖像』（中公新書、1997〔平成9〕年1月25日）
- 岡田みつ註釈『*Pride and Prejudice*』（研究社、1923〔大正12〕年3月20日）
- 落合雄三編『栃木県近代文学アルバム』（栃木県文化協会、2000〔平成12〕年7月15日）
- 笠原勝郎『英米文学翻訳書目 各作家研究書付』（沖積社、1990〔平成2〕年7月7日）
- 笠原勝郎『昭和を彩った英文学者たち——生涯と書誌』（沖積社、1996〔平成8〕年12月18日）
- 近藤いね子『英國小説と女流作家——オースティンとウルフ——』（研究社出版、1955〔昭和30〕年12月25日）
- 国立国会図書館編『明治・大正・昭和翻訳文学目録』（風間書房、1959〔昭和34〕年9月25日）
- 塩谷清人『ジェイン・オースティン入門』（北星堂書店、1997〔平成9〕年3月18日／増補版 2001〔平成13〕年3月21日）
- 鈴木美津子『ジェイン・オースティンとその時代』（成美堂、1995〔平成7〕年1月25日）
- 「世界名作大観豫約募集見本及規定」（1925〔大正14〕年3月）
- 『漱石全集』第9巻「文学論」（岩波書店、1966〔昭和41〕年8月23日）
- 惣谷美智子『ジェイン・オースティン研究——オースティンと言葉の共謀者達——』（旺史社、1993〔平成5〕年6月20日）
- 田辺昌美『ジェイン・オースティンの文学』（あぼろん社、1965〔昭和40〕年2月1日）
- 田辺昌美『改訂 ジェイン・オースティンの文学』（あぼろん社、1981〔昭和56〕年10月25日改訂版2刷）
- 田村道美「漱石と豊一郎・弥生子——*Pride and Prejudice*をめぐる——」『香川大学教育学部研究報告第I部』第84号（香川大学教育学部、1992〔平成4〕年1月）
- 田村道美「野上弥生子と「世界名作大観」（五）——『高慢と偏見』上巻——」『香川大学教育学部研究報告第I部』第93号（香川大学教育学部、1995〔平成7〕年1月）

- 田村道美『野上弥生子と「世界名作大観」——野上弥生子における西欧文学受容の一側面——』（香川大学教育学部研究叢書7、1999〔平成11〕年1月）
- 田村道美〔ほか〕『絶版文庫三重奏』（青弓社、2000〔平成12〕年9月15日）
- 津田塾大学「文学研究」同人編著『ジェイン・オースティン——小説の研究——』（荒竹出版、1981〔昭和56〕年4月20日）
- 東大英文学研究会編『オベロン』第2巻第1号（オベロン社、1938〔昭和13〕年1月13日）
- 東大英文学研究会編『オベロン』第2巻第2号（オベロン社、1938〔昭和13〕年8月1日）
- 直野裕子『ジェイン・オースティンの小説——女主人公をめぐる——』（開文社出版、1986〔昭和61〕年3月30日）
- 中村真一郎『本を読む』（新潮社、1982〔昭和57〕年7月20日）
- 日外アソシエーツ編『世界文学綜覧シリーズ1 世界文学全集・内容綜覧』上・下（日外アソシエーツ、1986〔昭和61〕年2月10日）
- 日外アソシエーツ編『世界文学綜覧シリーズ2 世界文学全集・作家名綜覧』上「西洋人名」（日外アソシエーツ、1986〔昭和61〕年5月10日）
- 日外アソシエーツ編『世界文学綜覧シリーズ3 世界文学全集・作家名綜覧』上・下（日外アソシエーツ、1986〔昭和61〕年7月10日）
- 日外アソシエーツ編『翻訳図書目録45/76 III. 芸術・言語・文学』（日外アソシエーツ、1991〔平成3〕年3月25日）
- 日外アソシエーツ編『翻訳図書目録77/84 III. 芸術・言語・文学』（日外アソシエーツ、1984〔昭和59〕年12月25日）
- 日外アソシエーツ編『翻訳図書目録84/88 III. 芸術・言語・文学』（日外アソシエーツ、1988〔昭和63〕年7月22日）
- 日外アソシエーツ編『翻訳図書目録88/92 III. 芸術・言語・文学』（日外アソシエーツ、1992〔平成4〕年12月21日）
- 日外アソシエーツ編『翻訳図書目録92/96 III. 芸術・言語・文学』（日外アソシエーツ、1997〔平成9〕年7月25日）
- 日外アソシエーツ編『翻訳図書目録1996-2000 III. 芸術・言語・文学』（日外アソシエーツ、2000〔平成12〕年1月26日）
- 日外アソシエーツ編『全集・合集収載翻訳図書目録45/75 III. 芸術・言語・文学』（日外アソシエーツ、1996〔平成8〕年5月20日）
- 日外アソシエーツ編『全集・合集収載翻訳図書目録76/92 III. 芸術・言語・文学』（日外アソシエーツ、1996〔平成8〕年4月21日）
- 日外アソシエーツ編『翻訳小説全情報45/92』（日外アソシエーツ、1994〔平成6〕年1月20日）
- 日外アソシエーツ編『翻訳小説全情報93/97』（日外アソシエーツ、1999〔平成11〕年2月26日）
- 日外アソシエーツ編『翻訳小説全情報1998-2000』（日外アソシエーツ、2001〔平成13〕年9月25日）
- 野上豊一郎「「誇と偏見」について」『英語文学』第3巻第4号（緑葉社、1919〔大正8〕年4月5日）
- 『野上彌生子全集』第23巻「評論・随筆6」（岩波書店、1982〔昭和57〕年4月7日）
- 『野上彌生子全集』第Ⅱ期第1巻「日記1」（岩波書店、1986〔昭和61〕年11月6日）
- 『野上彌生子全集』第Ⅱ期第2巻「日記2」（岩波書店、1986〔昭和61〕年12月8日）
- 『野上彌生子全集』第Ⅱ期第15巻「日記15」（岩波書店、1989〔平成1〕年7月27日）
- 『野上彌生子全集』第Ⅱ期第21巻「翻訳4」（岩波書店、1987〔昭和62〕年9月7日）
- 長谷川なほみ「Jane Austen 翻訳書目」『文献探索2000』（金沢文圃閣、2001〔平成13〕年2月23日）
- 樋口欣三『ジェーン・オースティン——喜劇的ヴィジョンの展開——』（英宝社、1984〔昭和59〕年3月1日）
- 蛭川久康著訳『講座イギリス文学作品論3 ジェイン・オースティン』（英潮社、1977〔昭和52〕年7月1日）
- 藤田清次『評伝 ジェーン・オースティン』（北星堂書店、1981〔昭和56〕年3月20日）
- 宮崎孝一『オースティン文学の妙味』（鳳書房、1999〔平成11〕年3月21日）
- 森田草平『續夏目漱石』（甲鳥書林、1943〔昭和18〕年11月10日）
- 柳内茂雄『オースティンの手法』（リーベル出版、1988〔昭和63〕年11月22日）

G. K. チェスタトン著、安西徹雄訳『G. K. チェスタトン著作集 8 ヴィクトリア朝の英文学』（春秋社、1979〔昭和54〕年4月10日）

クレア・トマリン著、矢倉尚子訳『ジェイン・オースティン伝』（白水社、1999〔平成11〕年10月5日）

ディアドリー・ル・フェイ著、川成洋監訳・太田美智子訳『大英図書館シリーズ作家の生涯 図説ジェイン・オースティン』（ミュージアム図書、2000〔平成12〕年 月日の記載なし。）

David Gilson, *A Bibliography of Jane Austen* (Clarendon Press·Oxford, 1982)

The Novels of Jane Austen, 10 vols., ed. By R. B. Johnson (J. M. Dent, 1892)

Jane Austen, *Pride and Prejudice* (London: Macmillan & Co. 1898)

Jane Austen, *Pride and Prejudice* (Everyman's Library, 1906/ Reprinted 1941)

Jane Austen, *Love and Friendship and Other Early Works*, now first printed from the original MS. with a preface by G. K. Chesterton (Chatto & Windus, 1922).

The Novels of Jane Austen, 6 vols., ed. by R. W. Chapman (Oxford University Press, 1923-54)